

奄美市・宇検村・伊仙町  
文化財総合的把握モデル事業の概要

---

平成22年7月

奄美市教育委員会・宇検村教育委員会・伊仙町教育委員会

# 1. 歴史文化基本構想の構成

---

(1) 構想の概要（目的、位置づけ）



(2) 文化財類型調査（文化財のリスト化）



(3) 関連文化財群（奄美群島遺産）の抽出と情報整理



(4) 奄美群島における関連文化財群等の広域的保存活用に向けた基本構想



(5) 3市町村における関連文化財群の保存活用計画

## 2. 構想の概要

### ①文化財類型調査

#### 【構想に定める内容】

- 奄美群島の歴史文化の特徴
- 奄美群島における文化財の抽出基準と分類方法
- リストの構成とデータの整理方法
- リスト及び個票の属性及び表示例
- 未整理の文化財情報に関する今後の作業方針
- 関連文化財群以外の文化財の取扱い方針

★本事業の最重要項目の一つ。

★将来的な群島全体での活用を見据えたフォーマットに留意。

★情報整理が不十分な分野等では今後の作業方針を明記。（追加修正が出来る仕組みを検討）

## ②関連文化財群の抽出と情報整理

### 【構想に定める内容】

- 奄美群島における関連文化財群（奄美群島遺産）の抽出
- 各関連文化財群（奄美群島遺産）のストーリーと構成資産に関する情報整理

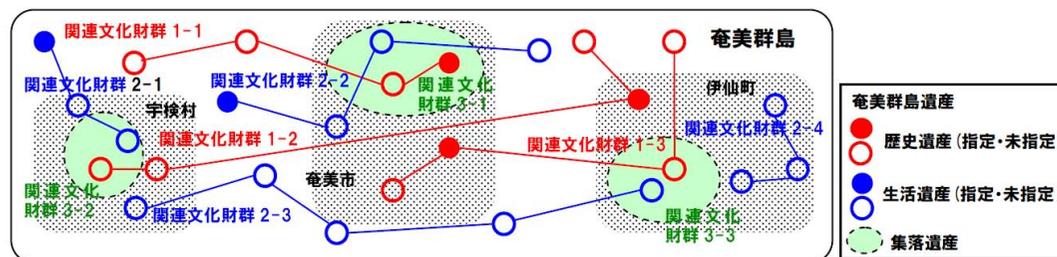
★奄美群島の文化的特徴を踏まえて、関連文化財群を①歴史遺産、②生活遺産、③集落遺産の3つの重点テーマから抽出。

★関連文化財群については、将来的に「奄美群島遺産」として登録・認定を想定。

①歴史遺産：歴史上の時代ごとに、奄美群島の社会的役割や特徴的な事象との関連性を有する特徴的な文化財群

②生活遺産：奄美群島における島民の暮らしの中に深く刻み込まれ、継承されてきた、人と自然との濃密な関係を有する特徴的な文化財群

③集落遺産：特徴的な空間構造・認識、年中行事、伝承・芸能、景観要素等を共有し、継承している集落を、ひとつの関連性を有する文化財群として捉える。



# 関連文化財群毎の取りまとめイメージ

## (1) 歴史遺産

### 関連文化財群①：先史時代の文化交流を示す遺産

## 関連文化財群

#### 【ストーリー】

奄美群島ではイヤンヤ遺跡、喜子川遺跡、天城遺跡など約 3～2.5 万年前の遺跡から打製石器等が出土しており、この頃から人が住んでいたと考えられています。

琉球列島における先史・古代は九州とのつながりが深い時代であり、サウチ遺跡では九州から弥生土器が持ち込まれ、宇宿貝塚では青白磁や鉛ガラスなど、九州や大陸との関係を示唆する遺物等が出土しています。一方、北部九州では奄美群島に先住する「ヤマト」モガイ、オオツツノハなどの貝類が重用されており、貝交易等

## ストーリー

また、8～10 世紀のフナグネ遺跡等からは多量のヤコウガイと貝製容器等が出土しており、ヤコウガイの商品化を図っていた可能性が示唆されています。この時期の人々は海辺に住み、サンゴ礁と密接に関わる狩猟採集生活を送りながら九州や琉球との関わりを有していたと考えられています。

奄美群島における先史・古代の遺跡群は、古来より南北と関係を持っていた奄美諸島の人々の生活の痕跡を今日に伝える重要な奄美群島の遺産です。

#### 【構成資産】

分類	名称	所在地
旧石器時代における人間活動の痕跡を残す遺跡	イヤンヤ遺跡	奄美市笠利町土浜
	喜子川遺跡	奄美市笠利町
	赤木名城	奄美市笠利町里
	天城遺跡	伊仙町
縄文並行期の活動を示す遺跡	宇宿貝塚	奄美市笠利町宇宿
		奄美市笠利町万屋
		奄美市笠利町宇宿
		奄美市笠利町宇宿
		奄美市笠利町和野
		奄美市住用町城
弥生～古墳時代並行期を示す関連遺跡	嘉徳遺跡	瀬戸内町嘉徳
	フナグネ遺跡	奄美市小湊
	マツト遺跡	奄美市笠利町
	屋鈍遺跡	宇検村屋鈍
	宇宿貝塚	奄美市笠利町
古代並行期の特徴を示す砂丘遺跡	マツト遺跡	奄美市笠利町
	屋鈍遺跡	宇検村屋鈍

## 構成資産

#### 【構成資産の分布】



## 資産分布

#### 【保存・活用上の問題点・課題】

- 奄美群島を含む琉球列島の歴史を紐解く、幾つもの要素を絡めながら、先史・古代の遺跡に対する今後の調査成果の蓄積と、それらの成果を踏まえた総合的議論が必要とされている。

## 保存活用上の問題点・課題

#### 【今後の取組方針】

- 各市町村においては、市町村の実施計画に文化財補助事業調査と整備を組み入れて、年次計画に従って継続的に詳細遺跡分布調査を実施していく。
- 国指定文化財になっている宇宿貝塚と住吉貝塚をはじめ、発掘調査された出土遺物全体の整理作業を早急に進める。
- 宇宿貝塚史跡公園に文化財展示場を整備し、展示法についての具体的な検討を進める。
- 各市町村の調査成果を踏まえた総合的な議論を進めていくため、奄美群島全域を広域的に把握するための文化行政の新たな取組みと、それを支える仕組みを確保する。
- 奄美群島を研究する本土在住の個人や研究機関との幅広い連携により、情報の共有を図り、議論を深めていけるような環境づくりにも積極的に取り組んでいく。

## 今後の取組方針

関連文化財群	概要
関連文化財群1-①	先史時代の文化交流を示す遺産
関連文化財群1-②	生産と流通交易と社会構造の変化を示す中世遺産
関連文化財群1-③	琉球文化の影響を今に伝える遺産
関連文化財群1-④	薩摩文化の影響を今に伝える遺産
関連文化財群1-⑤	南北の文化を融合しシマの独自性を今に伝える遺産
関連文化財群1-⑥	奄美群島の近代化を物語る遺産
関連文化財群1-⑦	太平洋戦争と戦後復興の足跡を示す遺産

#### 生活遺産

奄美群島における島民の暮らしの中に深く刻み込まれ、継承されてきた、人と自然との濃密な関係を有する特徴的な文化財群を拾い上げるにより、奄美文化の固有性と多様性を明らかにする。

関連文化財群2-①	シマンチュの精神を伝える「ケムン」伝承
関連文化財群2-②	豊かな自然の恵みに育まれた島の生業
関連文化財群2-③	多様な言語の存在を今に残す島口
関連文化財群2-④	島の暮らし・心を伝える島唄
関連文化財群2-⑤	自然に寄り添い、支えられたシマの行事
関連文化財群2-⑥	暮らしの中に残された「あそび」
関連文化財群2-⑦	島から生み出された芸術・文学

#### 集落遺産

特徴的な空間構造・認識、年中行事、伝承・芸能、景観要素等を共有し、継承している集落（シマ）を、ひとつの関連性を有する文化財群として捉え、拾い上げるにより、集落（シマ）を原単位として大切にされている奄美群島民の世界観を明らかにする。

関連文化財群3-①	大和文化の受け入れ口となった『赤木名集落』
関連文化財群3-②	航路の拠点、南北の文化が融合したシマ『宇検集落』
関連文化財群3-③	先史時代からの歴史が育まれた『面鏡集落』
⋮	⋮
⋮	⋮

### ③奄美群島における関連文化財群等の広域的保存活用に向けた基本構想

#### 【構想に定める内容】

- 群島全体での広域的な歴史文化のしまづくりに向けて（将来ビジョン案）
- 関連文化財群を活かしたパイロット事業の展開方針（案）  
→奄美群島文化財総合データベースの整備、奄美群島遺産の登録認定システム等
- 広域的文化財行政システムの確立に向けた行政機関連携の仕組み（案）

### ④3市町村における関連文化財群の**保存活用計画**

#### 【構想に定める内容】

- ①各市町村における関連遺産群の分布と構成
- ②各市町村における歴史文化のまちづくりに向けた基本方針
- ③関連遺産群を構成する各文化財に対する保存整備計画
- ④関連遺産群の活用に向けた周辺環境の整備計画
- ⑤**歴史文化保存活用区域**の設定と事業の推進方策

